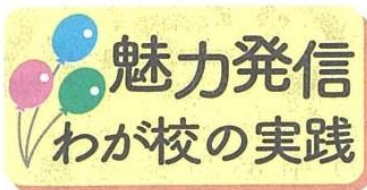


## 「こだま学」のモデル 市民ポプラサロン 地域の高齢者と交流

創立100年の伝統校、県立児玉高校と統合し「新生・児玉高校」として再スタートする本校は、新学習指導要領の基本理念である「社会に開かれた教育課程」を具現化すべく、地域学「こだま学」を来年度から進める。専門学科では、「総合的な探究の時間」に代えて「課題研究」を進めている。その「課題研究」



〈120〉

### 埼玉県立児玉白楊高校 ㊦



「市民ポプラサロン」で楽しく交流する生徒たち

のテーマに、地域課題解決のエッセンスを大いに注入し、「こだま学」として展開していく。そのモデルとなる実践として、本年度から先行して取り組んでいる「市民ポ

プラサロン」がある。この「市民ポプラサロン」は、本庄市社会福祉協議会と本校の連携・協働の取り組みで、地域の高齢者の方々に月1回サロンとして本校に來校していただき、農業科の生徒が日々学んだ「知識・技術」をベースに教師役を務める。この「市民ポプラサロン」の好事例となった。来年度からの新校では、このような地域課題探究を積極的に展開し、地域と協働した学校づくりを推進していく。

め、農作業と一緒にいながら世代を超えて交流するという事業である。6月の第1回は、本校で植栽している小梅の収穫を行った。当日は天気も良く、絶好の収穫・交流日和となった。普段は人とのコミュニケーションがあまり得意ではない生徒も、地域の「おじいちゃん」「おばあちゃん」たちに農作業を教えながら徐々に会話が進み、良い交流となった。何より普段の授業よりも楽しそうであった。参加した高齢者の方々は「楽しかった」「若返った」などの生の感想を頂き、生徒たちは手心えを感じていた。孫よりも若い高校生とのたわいもない交流ではあるが、高齢者にとっては孤立防止や日々の生活の活力となり、高校生にとっては、そこに自

(黒田勇輝校長)

次回は1月9日付掲載